

## モモ病害虫発生・越冬状況（休眠期）と発生予測

今後、気温が高く経過した場合、生育が早まる可能性があります。果樹情報等 (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kazyu>) を参考にして、遅れないように防除対策を実施してください。

### (1) モモせん孔細菌病

前年秋期の新梢葉における発生ほ場割合は平年並でした（図1）。モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生予測モデルによると、春型枝病斑が2%以上発生するほ場の割合は、平年よりやや低いと予測されています（図2）。

春型枝病斑は発芽後頃から発生し、気象条件によっては急激に拡大するため、ほ場内をよく観察し、徹底して除去してください。また、開花直前及び落花直後の防除を徹底してください。

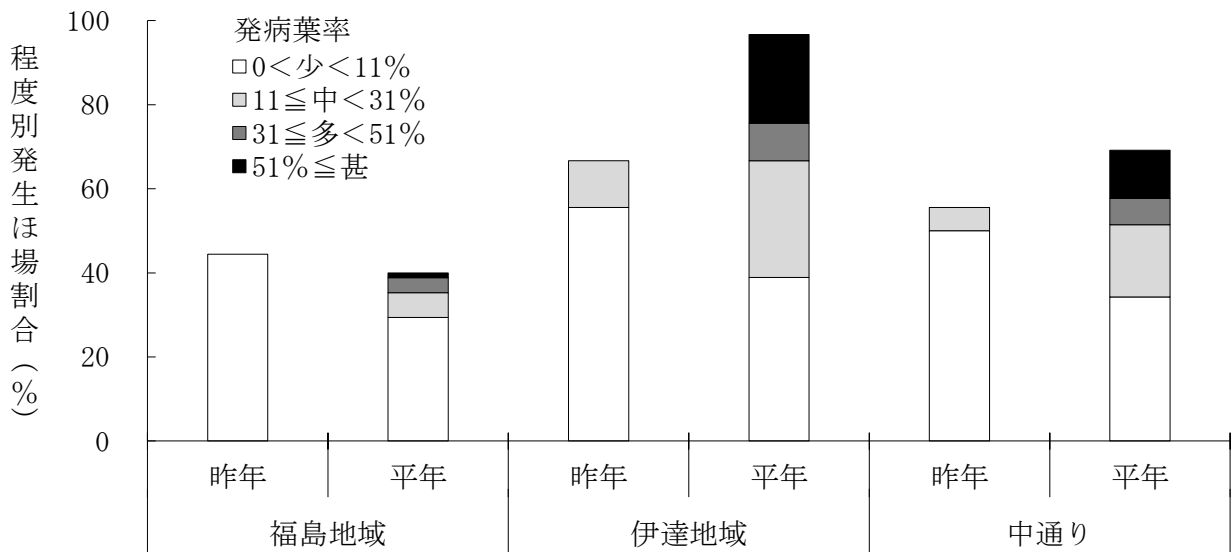


図1 モモせん孔細菌病の新梢葉における発生状況（令和5年9月）

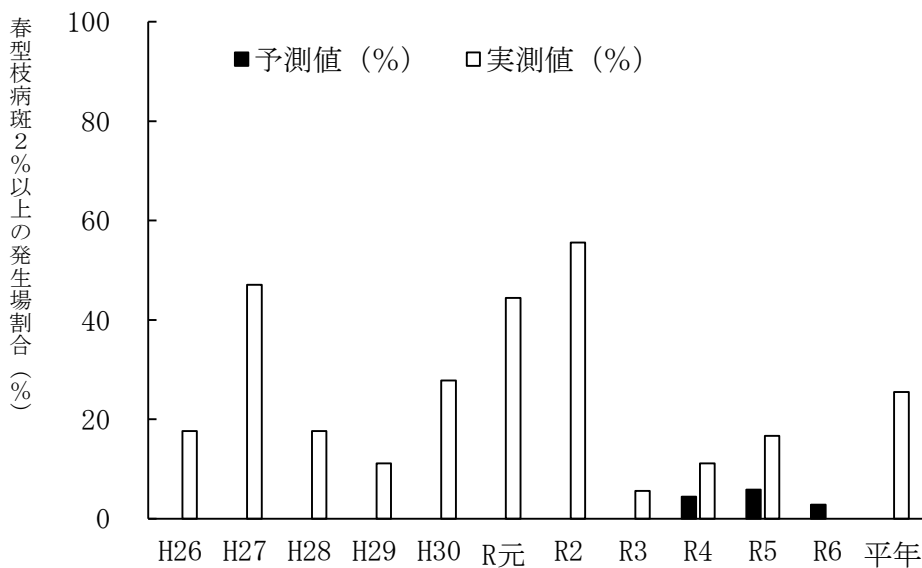


図2 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生予測と年次比較

## (2) モモハモグリガ

前年の越冬量調査において、発生地点割合は平年並でした（図3）。

初期の発生密度を抑えるため、第1世代幼虫発生期（落花10日後）にネオニコチノイド剤を散布しましょう。

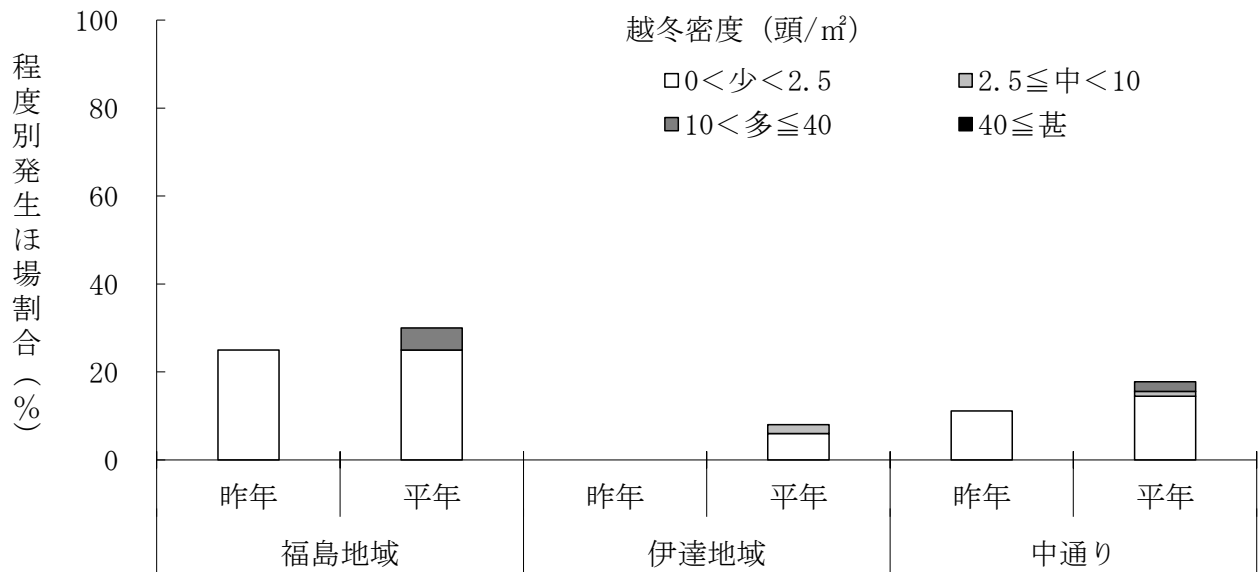


図3 モモハモグリガ越冬成虫の発生状況（病害虫防除所、令和5年12月、9地点調査）  
※1地点当たり、6㎡の木造壁面を調査し、1㎡当たりの密度を算出した。

## (3) シロカイガラムシ類

前年秋期の側枝寄生の発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。

発芽前にマシン油乳剤を散布しましょう。

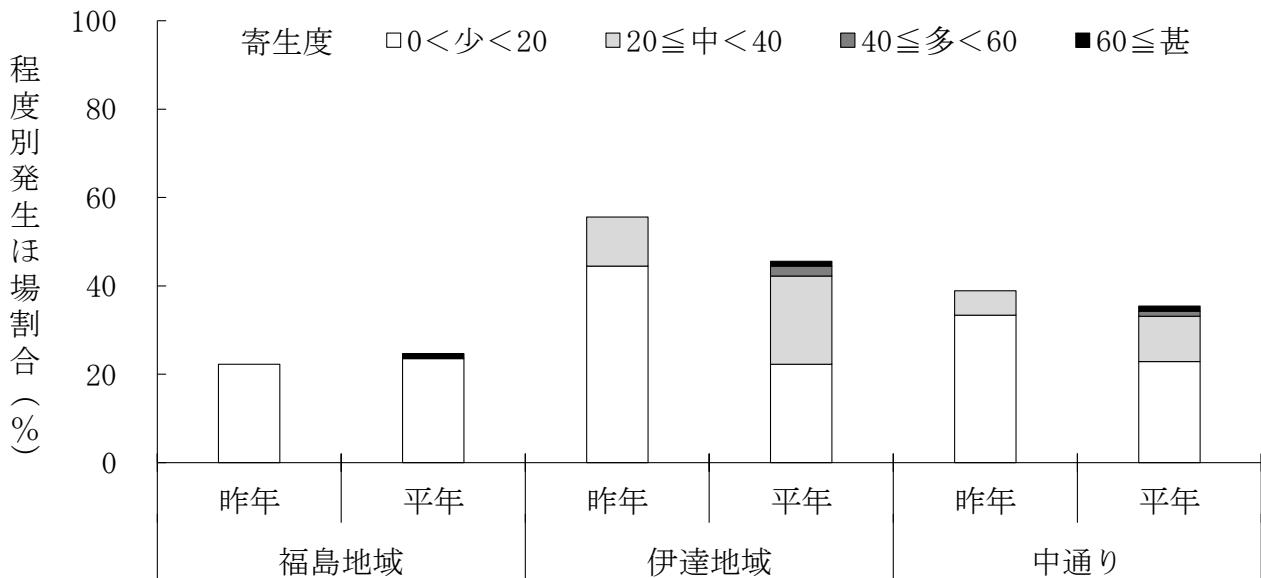


図4 シロカイガラムシ類の側枝における寄生状況（令和5年10月）